

《翻 訳》

ネパールのアンタツチャブル（二・完）

イ
ン
セ
ツ
ク

〔『人権年鑑』一九九三〕

桐
村
彰
郎
（訳）

目次一覧

カーストに基づくアンタチャビリテイとはなにか

アンタツチャビリテイのシステム…起源

階級制度とアンタツチャビリテイ

アンタツチャブルとは誰か？

(a) 装飾品、武器、陶器類を作る仕事や他の労働技能に従事するコミュニティ

(b) 布を織ったり地域の音楽楽器を弾いたりする仕事に従事するコミュニティ

(c) 皮革業のコミュニティ

(d) 歌うジブシーのコミュニティ

(e) バデイ・コミュニティ

(f) クマル・コミュニティ

(g) 洗濯職に関するコミュニティ…ドービ

(h) テライ (マデシュ) のアンタッチャブル

(i) ネットワーク・コミュニティ内のアンタッチャブル

ネパールのカーストにもとづくアンタッチャビリテイの状況

辺鄙な西部地域

ハリヤ (耕作男たちの) システム

ドリ (担ぎかこ) システム

ジャリ (姦通) システム

ダン・カーネ／チャングラ (持参金) システム (以上 前号)

中西部地域

西部地域

中央地域

東部地域

カーストに基づくアンタッチャビリテイに対する宗教的諸コミュニティ、政府および政党の態度
ネパールにおけるカースト解放のためのアンタッチャブルのイニシアティヴ

カースト・アンタッチャビリテイの廃止のための勧告

中西部地域

アンタッチャビリテイは、テライ諸郡の都市部ではあまり意味が見出されない。たとえば、アンタッチャブルであるビシユワカルマは、ラマイやデユクリで公然とレストランを経営する。しかしながら丘陵部や山岳部ではアンタッチャビリテイがひろくみられるのである。都市部ではより少なくなっただけでも、アンタッチャビリテイはブラーマンやタクリによつて守られており、アンタッチャブルは家の外で食事を与えられる。ネバルガンジでは、低位カーストの人々は都市部であるにもかかわらず、バゲシユワリ Bageshwari 寺院に入ること許されない。

ルクム郡では、アンタッチャブル・カーストは「プラトバンド」[bratbandh]（紐付け）を行う。ブラーマンはかれらの家に行き、この宗教的儀式を行いそして供物を受け取る。ルクム郡のあるところでは、他郡よりも相対的にアンタッチャビリテイが少なく、あるところではまったく存在しない。タウンはロールパ郡の村だが、だいたいすべてのカーストの人々が住んでいる。かれらは家族内での活動や結婚においては独立しているとみられるが、祝宴や結婚パーティや葬式行列や、市や祭りや会合や宗教的、文化的行事のような社会的活動においては、平等に扱われる。この村では、高位だ低位だ、タッチャブルだアンタッチャブルだとして、誰も差別されない。

テライのひとつの郡であるバルディヤでは同様に、アンタッチャブルの教員や学生が差別されている。デユウダカラ・マチャガード Deudakala Machhagad のネパール・ラシユトリア小学校の教員、ラム・バハドウル・ネパリが報告したように、お茶を飲むときでさえも違った場所に座らなければならぬとき、かれらは屈辱を感じるのであ

る。低位カーストの人間がたまたま高位カーストの少女と結婚するとき、高位カーストの人々は別れさせようと共謀し、かれに嫌がらせをおこなう。このような場合にはかれはその都から逃げなければならない。テライでさえも、アンタッチャブル・カーストの子供たちの入学率は大変低い。その主要な理由は両親の悲惨な財政事情である。子供たちもまた自分たちの生活費のために働かねばならない。両親の財政事情がよりよい子供たちでさえも、屈辱を感じざるを得ないために、学校へ行くという傾向がみられない。

ジャージャルコート郡のような山岳部では、タクリやブラーマンは、アンタッチャブルに公衆の利用する飲料水栓や井戸に触れることを許さない。カーランガでも同様に、カーストに基づく差別が極端に見られる。この地域では、カマイヤおよびハリヤ・システム（奴隷的債務労働）が相当な程度まで行われている。奴隷的債務労働システムは、バンケヤバルディヤやスルケートのような諸郡で広範に行われている。タルーのコミュニティだけがカマイヤ・システムの犠牲なのではない。アンタッチャブル・カーストもまたカマイヤおよびハリヤ・システムにつながっているのである。丘陵部や山岳部では、アンタッチャブルはあるやり方あるいは別のやり方で、ハリヤ・システムの打撃を受けて困窮している。

この地域のアンタッチャブルはミルクを売ったり配ったりすることが禁止されている。かれらが水牛を買うために政府レベルでローンを認められない理由はそれなのである。山羊を育てるためでさえ、かれらは若干の場所でもローンを与えられるに過ぎない。いくつかの場所では、アンタッチャブルは「プラサドゥ」Prasadや「パンチャムリット」Panchamrit（五つの神聖な神の食べ物の混合物）を提供されない。ミルクや凝乳もかれらに供せられない。

この地域でもまた他の場所と同様に、市民権証明書は、もし低位カーストの人々がその世襲的なアイデンティ

テイの種類の名を述べる場合には、かれらに発行されない。かれらはロハールとかカミとかスナルとかグマイとかネパリとかドムとか他のカーストとかの名前を述べなければならぬのである。この制限はまた教育証明書や土地所有証明書にも適用される。最近では、英国軍に加わる資格があるとみなされていたハリ・ネパリがかれのカースト上の地位のために追放された。市民権証明書の発行に関しては、ジャージャルコート郡の郡主席官であるネトラ・バハドウル・カルキはリベラルな気質であるように思われる。アンタッチャブルはまさにかれらの世襲的な姓を述べることによって市民権証明書を発行されているのである。

アンタッチャブルが従僕の仕事さえも得ることのできないのはそのカーストの地位ゆえである。

中西部地域はバデイの中核的地域である。かれらの数はラージブル、バンムスリ、タラタル、トゥルシール、それにガガンゲンジで大きい。この地域では、若干のバデイ・コミュニティは売春にかかわっている。その結果、父親の特定されない子供の数が増えており、そしてかれらが成長したとき、かれらはその職業として売春を自然なものとして受け入れるであろう。売春をやめて結婚生活を送るバデイ人も見出される。彼女らは強制によって売春をするようになったと述べた。彼女らは売春から生まれたその子供たちを同じ職業に押しやることを望んでいない。売春をやめたバデイ人は今は他の技能のないしは非技能的な仕事に従事することによって生活を維持している。彼女らはまた子供を教育し始めている。バデイはルクム、ジャージャルコート、サリヤーン、ピュータン、ロールパおよび他の郡に定住して、販売用の粘土つぼを製造し、ダンスや歌を演じ、また施し物を乞い、そして売春に従事しているのはほとんどない。

この地域のアンタッチャブルは一夫多妻、ジャリ(姦通)およびドリ(担ぎかご)システムの影響をひどく受けている。ピラデヴィ・スナルはバルジワングー二(ピュータン)のダチャウル出身の七人の子をもつ四〇歳の母

親だが、夫に捨てられた。かれは別の女と結婚し別に生活を始めたのである。このような諸例は、生活の中で経験しなければならぬアンタツチャブルの女性の極端な苦しみを裏付けるものである。

低位カーストの人々が高位カーストの人々に嫌がらせをされる二つの極端なやり方がある。レイプや牛殺しや重い処罰の宣告に関連するケースに巻き込まれるのである。アンタツチャブルの多くがレイプや牛殺しの事件で禁固刑に処せられ、あるいはかれらに不利な法的事件で出廷しなければならない。この地域のアンタツチャブルとの個人的インタヴューで、かれらがまったく理由もなくこのような事件に巻き込まれることが明らかになった。

丘陵部や山岳部では、アンタツチャブルは巻き貝 *Conchshell* を吹くことを禁止されている。昨年ファグン *Fagun* の月に、ラクリ村開発委員会（ダイレク）の住人、故ダンサラ・カミニの遺体を運ぶ葬式行列で、巻き貝が吹き鳴らされた。しかしながら、地域の上位カーストの人々はかれらは巻き貝を吹く権利を持っていないといい、かれらを殴った。

ルクム郡のモラワン村開発委員会は、奇妙で恥しらずなアンタツチャビリティイの状況を示している。マゲ・サン克蘭ティ *Maghe Sankranti*（ネパール月の最初の日）には市が行われる。市の終わり頃に、地元の上位カーストの男女が平らな一段高い土地に集まり、太鼓を打ってアンタツチャブルの居留地に向かい、男性の秘所を示して「これを喰らえ！地獄へいけ！」と歌いそして飛び跳ねて踊る。かれらは、それは神をなだめるために演じられるのだと言う。アンタツチャブルはその間そこへ行くことは禁じられる。もしかれらがそこへ行ったり、あるいはこの制限に反対したりすれば、かれらはタモ *Tamo*（銅）の10ポル *poi*（三九一グラム）の罰金を取られる。

この土地の低位カーストの住人たちは、この悪慣行に反対して郡主席官に請願した。しかし、これまでのところそれははぐらかされている。これに関して当該の村の開発委員会が警告を発せられたことが報告されているが、社

会的悪は依然としてはびこっている。

この地域のさまざまところで、アンタッチャブルは地元レベルでさまざまな政党の代表をほとんど持つていない。それに加えて、わずかな数の代表さえも上位カーストのそれのように扱われない。カーストの平等を強調する政党は、この点ではいかなる重要な措置にも着手しなかった。その代わりに、今年のダサイ Dusse の祭りのとき、ネパール共産党(マサル派 Masal) の活動家を含む政治活動家は、ピュータンの郡教育官、バル・バハドウル・パリヤールを教員選抜で不正だと非難し、かれを「ダマイ(アンタッチャブル)のおまえはこの地位には適さない。ダマハ Damaha (太鼓)を打ちに行き、布を縫え！」と侮辱し、そして最終的には郡をやめさせた。

ロハルパニール(ダン・デウクリ)生まれの三六歳のブラーマンであるデイリ・ラジ・ギミレは、同所出身の二六歳のトビ・ビシユワカルマにたいし、低位カーストに属していてもインドに連れて行くと嘘の保証をした。かれは彼女と性的関係を持ち、子供(ビロド・ギミレ)をもうけた。しかしかれは息子として受け入れることを断った。今やトビ・ビシユワカルマは、彼女の息子が父の資産の分け前を受ける資格をもてるように、正義を求めて裁判所のドアをたたいている。トビが最近すなわち一九九三年一月二四日にこの子供を産んだことが留意されるべきである。

チャイラハーニ(ダン)のラマヒ町出身の三〇歳のマン・バハドウル・ダマイは、一九九三年に二四歳のアイティ・チュトリニと恋愛結婚をした。娘の両親はマン・バハドウルを警察に拘留して、かれはそこでひどく拷問された。妊娠しており、まだ自分自身の選択権をもっていない、と娘が言ったとき、彼女は若者と別れたくなかったのである。他のところでも同様にこの地域においても、カースト間の恋愛結婚はカーストを理由として挫折させられるのである。

フムラやジウムラのような諸郡では、アンタッチャビリテイが同じボテ・コミュニティ内で存在することが見出された。その内部には「カマロ」Kamaloと呼ばれる一種の労働者が存在するが、かれらはアンタッチャブルのレベルにまで引き下げられている。

西部地域

この地域の、ムスタン郡を含む北方部はたいいモンゴロイドの人々が住んでいる。ここでは低位カーストの人々はカミとダマイとサルキから成る。ジヨムソンよりも高い場所に住むこれらの人々は、モンゴル人種の言語と文化に自らを適応させてきた。かれらは人口においては相対的に少ない。チベットとの国境地域に定住するモンゴロイド（ボテ）コミュニティは低位カーストの人々を『ガラ Gharas』といい、かれらをアンタッチャブルとして扱う。ガラはレストランや家屋や仏教道場や寺院に入ることができない。それでかれらは別個に住まなければならない。これらの無辜で素朴なガラはレストランで食事後つばを洗わなければならない。

以下に記述する実例は、社会生活がムスタンではカースト差別によって支配されていることを示している。ピレンドラ国王が一九七四―七五年にムスタンを訪問したとき、かれを巧みにエスコートしたのはムスタン公を助ける教師のマン・バハドウル・ビシユワカルマであった。それで、ネパール政府は、かれの能力に対する敬意のしるしとして、かれをムスタン公の個人秘書に任命した。他のコミュニティの公の廷臣はかれに対して共謀し、かれの代りに別の人を任命させた。カースト差別はミヤグデイやバグルンのような諸郡で極端な形で見出される。ここでは低位カーストの住民は、かれらの世襲的な姓を述べることによって市民権証明書を得ることができない。かれらはアンタッチャブルとみなされ、寺院や神社に入ることを禁じられている。

アルガカンチー、グルミそれにバルバの諸郡もまた同じ形態のカースト差別を経験してきた。それはまた、限定された程度ではあるが、ゴルカの市街地域にも存在する。素朴な低位カーストの人々はレストランや店で差別される。かれらは公衆の利用する飲料水栓や井戸の使用を認められていない。次の最近の出来事が実例として引用される。ダン・クマリ・ガイレは、コプラン村開発委員会の公衆の利用する水栓から水を持つてくるために出かけたが、ヒラ・ラル・バスネットにとめられた。そのときでさえ彼女は彼女のつばを水でいっぱいにしてしようとしたが、鎌で傷つけられた。この事件は法廷で手続き中である。

ゴルカでは、低位カーストの人々が寺院や神社に入ることを禁止されていることが明らかになっている。それは、政府レベルで低位カーストの人々の人権が侵犯されていることを示すものである。

一九九三年二月三日、ネパール被抑圧カースト解放協会 (S L O C) (郡委員会、ゴルカ) は、低位カーストの人々がゴルカ宮殿内のゴルカ・ナート Gorkha Nath 寺院で礼拝することができるよう集会を組織した。しかしそれは政府レベルで禁止された。群集は力づくで寺院に入ろうとしたが、警察の、撃つという威嚇でとめられた。結局はこれら低位カーストの人々は参拝することなく引きあげねばならなかった。「何故われわれは寺院に入れいいのか? 書面で返答せよ」と言われて、ゴルカ記念保存・宮殿保護事務所副主任、ガネシユ・ピクラム・シヤハは、書面で制限をかれらに伝えた。

アンタッチャピリティは、シャンジャヤー、ルーパンデヒおよびナワルパラシの諸郡でも支配的であると見られる。バルバ郡では低位カーストの人々のなかに差別が存在するが、しかし、シャンジャヤー郡では、それはかなりの程度まで和らいだ。この郡では、高位カーストの人々が低位カーストの人々に行く差別が国家レベルで議論の争点として出てきている。ペラコット村開発委員会のウディヤチャウル酪農開発公社が設立したバグワッティ・ミルク

収集センターでは、低位カーストの人々はここ八年間これらのミルクを売ることが許されていなかった。しかしながら、一九九三年一月六日に低位カーストの人々は、これらのミルクを買いそれを混合するようにセンターに圧力をかけた。この事件は抗争を激化させ、低位カーストと高位カーストの人々の間に闘争があった。のちにブラーマンの圧力で酪農開発会社はミルク収集センターを閉鎖した。この問題で地方当局もまたその支持を高位カーストの人々に広げた。そのとき地方の被抑圧貧農はこの問題と闘うため行動委員会を作った。二月一三日に数千の人々が、行動委員会の指令によりシャンジャヤーのバザールで抗議集会を組織した。かれらはミルク収集センターの再開と差別にふける人々に対し行動を起こすことを要求した。

この地域のいくつかの学校で働く低位カーストの教員や雇われ人は屈辱を受け、カーストを理由としてやめさせられさえている。関係当局は、しかし、それに何の関心も示さなかった。この地域ではカースト間結婚の例があるが、低位カーストの人々はこの点で嫌がらせを受ける。例えば、ビルコットー二(タナフン郡)生まれのアンタッチャブルの女性、リウリ・ダミニは、同じ村のハリ・バハドウル・ラナによって妊娠させられた。しかし彼女はいくらかの額を支払われて、あるカミの若者の管理下にゆだねられた。ハリ・バハドウルもまた水を使用することを禁じられ、そしてブラーマンたちはかれの最初の妻から生まれた息子のために「ヌワラン」Nuwaraの儀式を行うことを受け入れなかった。他方、カミの若者もまたダマイの女性と結婚したかどで水の使用を禁じられた。結局リウリは人生を別の男と過ごすことを余儀なくされた。それに加えて、バヌー三(タナフン)生まれのトゥロク・マヤ・パリヤールは、同じ村のナンド・クマール・シュレスタの息子を産んだ。それがわかったとき、ナンド・クマール・シュレスタは姿をくらました。コミユニティは、一方ではナンド・クマールをかれのカーストから追放し、他方トゥロク・マヤは病気で死亡した。赤ん坊にとっては不運であった。ナンド・クマールは現在ムグリ

ンでレストランを開き、かれの最初の妻や子供たちと住んでいる。同村開発委員会では、アチュート・ラジ・アリアルがラディカ・パリヤールと恋愛結婚を敢行し、現在社会的アウトカーストの生活を送っている。

一九九三年一月二九日、アシヨク・ビシユワカルマがリラ・ビシユワカルマと恋愛結婚することを決心したが、かれらがその目的でペンディヤバシニ Bindhyabasin 寺院に行ったとき、司祭はカーストを理由に結婚式を挙行することを断った。

しかしながら、アムチャウル村開発委員会(バグルン)のトップ・バハドウル・シユレスタとカマラ・ネパリの間の恋愛結婚は地域コミュニティに受け入れられているようにみえる。同様に、レンジヤーのインドラ・ラル・アチャリヤは、一九九三年七月―八月に、アグラカンチ生まれのバブ・ラム・ビシユワカルマと彼女の娘が結婚することを喜んで歓迎した。

ナワルパラシ郡の諸寺院にアンタッチャブルが入ることを禁止することについて頻繁に抗争が生じてきた。この郡においてはアンタッチャビリテイの観念は依然として支配的である。例えば、ナヤ・ベラニー八出身のインドラ・バハドウル・パリヤールの八歳の娘、サグン・パリヤールはマガールの女により彼女に触れたと言われた。興奮して、マガールの女は、その水つぼをサグンの頭の上に落とす。サグンは重篤状態でビル病院に運ばれた。長い治療のちにはじめて彼女は帰宅した。

(写真一葉、水を汚したとかどで傷つけられた八歳の少女、サグン・パリヤール、略)

プトワル市―五では六五歳の女性、ビマラ・ビシユワカルマが水に触れ水を流したと主張された。彼女は重症を

負うほどひどくぶたれた。

中央地域

国の首都もあるこの地域は政治的、経済的、宗教的、知的、文化のおよび他の分野で、相対的にずっと進んでいる。ただ、社会的な面で遅れている。カトマンドゥ盆地は寺院や神社や僧院であふれており、宗教的観点からはずっと先行している。それは同時に、宗教にもとづくカースト制度によって作られたカースト差別とアンタツチャピリテイにとらわれている。盆地それ自体の内部では、若干の宗教的神社、水栓、井戸、葬式およびその他の公衆の利用する場所が、アンタツチャブルに対し開放されていない。カースト差別は首都のホテルやレストランでは存在しなくなったが、しかし、インドラヤニ、アラポット、バードラバス、ムールパニ、ダンチヒ、サンクーおよび他の準都市ではなお続いている。これらの場所では、低位カーストの人々はレストランの外で食事し、つばをきれいにしなければならぬ。農村地域では、木杵（『ピラ』*pira*）でさえも汚されるだろうと考えられるが故に、アンタツチャブルには提供されない。かれらは高位カーストの人々の家での食事では別個に座らねばならない。牛糞が場所をきれいにするためにかれらのそばにおかれ、そして食事に用いられた器具はきれいにされねばならない。

こうした慣行はラリトブルやバクタブルの諸都市の郊外地区でも支配的である。カトマンドゥ盆地の三都市すべてで、家屋は貸家ではアンタツチャブルには利用できない。それゆえにかれらは部屋あるいは家屋を借りるためにカーストを隠さなければならない。もしカーストがたまたま判つたら、かれらは家を立ち退く以外に選択はない。盆地のいくつかの場所では、ポデ（清掃人）は、ガテ・マンガル *Gathe Mangal* で悪霊をなだめるために施しを受けることを余儀なくされる。中部地域の北東部では、高位カーストの人々はアンタツチャブルの人を買い、その顔

に黒や赤や黄の色を塗り、また灰で塗り、また白や黒の衣類を着せるが、それは悪霊をなだめるためである。

他の発展した地域と同様、この地域でも、カースト間結婚を続けることはかなり難しいことがわかつている。このような事情では、カッブルは他の場所に逃げなければならぬか、あるいは別居しなければならない。低位カーストの少女に最初は偽りの保証をして、のちに彼女らを捨てる、という事件が頻発している。例えば、ブムルターー七（カヴレ郡）のドウムレ・パニ生まれのカインロ・ウブレティは、寡婦のカンチ・ダミニを誘惑性的関係をもち、彼女は男児をもうけもした。のちにウブレティはその子を息子として受け入れなかった。カンチ・ダミニはサングラム・ウブレティと名づけてその子を育てた。現在サングラム・ウブレティは父との関係を立証しようとしている。

デオプルー一（カヴレ）生まれのレワティ・ラマン・ダカルは同じ村のブツダ・ラクシュミ・ピシユワカルマと不法な性的関係を持った。彼女は子供を産んだ。子供はラム・プラサド・ダカルと名づけられたが、村開発委員会の書記はその誕生の登録を受け入れなかった。他方、高位カーストの人々はレワティ・ラマンをそそのかして子供を受け入れることに反対した。しかしながら、カヴレのネパール被抑圧カースト解放協会（S L O C）郡委員会のイニシアティヴで、子供の誕生の登録のための試みがなされつつある。

幾人かの高位カーストの若者がアンタッチャブルとともに食事をしたときに、コミュニティから追放するというケースもある。

他の場所と同様、この地域でもここアンタッチャブルはたいの寺院や公衆の利用する場所の立ち入りを禁止されている。一九九三年一月二七日、パンチカルー三（カヴレ）生まれのあるサルキの息子が、粉ひき場へ別人の稲の荷を運んだが、何故粉ひき場のなかへ入るのかとケル・バハドウル・ドゥラルにたずねられ、殴られもし

た。バネバ市一〇出身のあるブラーマンの店主は、一九九三年一二月二九日カンチャン・パリヤールを侮辱し、かれを店から追い出した。

低位カーストの人々は、カウレヤドラカヤシンドウパルチョークやラメチャープのような諸郡ではレストランヤ寺院に入ること認められていない。この地域のたいいの諸郡では、低位カーストの人々は、かれらの世襲的姓を述べることだけでは市民権証明書を受けることはできない。

ラメチャープ郡では、アンタツチャプルは、ブラーマンが踏んだ小道を距離をとって歩かない場合には処罰を免れない。かれらは飲料水用の別の井戸を作ることを要求される。かれらは丘陵部にあるたいいの収集センターでミルクを売ること認められていない。この状況は、高位カーストの人々と酪農開発会社の雇われ人たちが行った判断の結果として出てきたものである。

シンドウパルチョーク郡では、低位カーストの人々は公衆の利用する井戸から飲み水を使うことが許されていない。例えば、ラクシユミという名の、ジャンカ・バハドウル・ビシユワカルマの三歳になる娘は、遊びながら井戸の近くに行った。彼女はバルヴァーティ・バタライによってぶたれたが、彼女の両親は抗議した。翌日その子の遺体と同じ井戸の中で浮かんでいるのが発見された。地元の人々は、子供の死は偶発的事件であるという一致した報告をした。この事件はなおミステリーに包まれている。数日後、ナル・バハドウル・ビシユワカルマが同じ井戸から飲み水を使ったかどで殴られた。バルヴァーティ・バタライの夫、クリシユナ・プラサド・バタライは叫んだ。「すでに命を失ったものがある。他の者も死ぬつもりなのか?」。この脅迫は先の事件をいっそう疑わしいものになっている。

この地域のテライ諸郡、すなわちチトワン、バラ、パルサ、サルラヒ、マホッターおよびダヌシヤには、マイ

テイリのアンタッチャブルが住んでいる。アンタッチャビリティは丘陵部や山間部よりもこの場所のほうが相対的に行われることが少ないとみられる。しかし差別は心理的レベルにおいてなお現存している。チャマル、ドム、ムサハール、ドウサードウおよびドービのような職業コミュニティは屈辱的で軽視された生活をおくらねばならない。ドムはレストランに入ることではできないし、公立学校では差別されている。アンタッチャビリティは都市エリアよりも農村エリアで支配的であることがわかつている。

この地域では、低位カーストの子供たちが、特に学校の先生と仲間の生徒たちによって、高位カーストのそれと対等に扱われないことが観察されている。その結果、かれらのドロップアウト率はかなり高い。教育を継続するものでさえも扱いの悪さのために、内部で進展する劣等感によってその学習に進歩が期待されない。低位カーストの人々は資格があり有能であっても、カーストを理由に仕事を得ることから締め出されている。かれらのうち雇われている若干の者は屈辱に直面しなければならない。特に従僕のポストに関しては、かれらは従業員に飲み水やお茶を出すことができないので資格がない、とみなされている。

チトワンのようなテイリの都市エリアにおいても、酪農開発会社の従業員は、低位カーストの間であるチャンドラ・バハドウル・ビシユワカルマが、一九九三年九月二六日に酪農センターでミルクを収集することを認めなかった。この問題と闘うために、S L O C ネパールの郡委員会はアジテーションを開始し、地元政府がそれを解決しようと試みた。テイリの低位カーストの人々は水牛を買うために農業開発銀行からローンを受け取ることはない。かれらは、市場で公然とミルクを売ることができないのである。

ジョティ・ナガール(チトワン)の三四歳の男、故ダサイ・ラム・バハドウル・パリヤールは、夜遅くかれの店から帰宅するところだったが、かれがグルミ・イエティの中庭に着いたとき、彼女はかれが盗みをするためにそこ

にやってきたという口実をつけて、彼女の夫の兄弟にかれを殴らせた。かれは危篤状態で警察に委ねられた。警察によって病院に連れてこられたとき、彼は死んだ。現在、故ラム・バハドゥルの親戚が正義を求めつつあるが、犯罪を隠すためにあらゆる可能な努力が払われつつある。

最近無実の低位カーストの人々を殴ったり、虐待したりするような事件が頻発する。例えば、一九九三年一月一日に、七八歳のバル・クリシユナ・ビシユワカルマは、飛行場の土地でかれの水牛に草を食わせていたというので、チトワンの警察によって殴られ死亡した。抗議の中で、激しい公憤と、犯人に対して措置を取れとの要求があった。しかしながら、関係当局は警察官ムクタ・バハドゥル・カルナおよびテジ・ナラヤン・デヴコタを保護しようとしている。

東部地域

一見したところ、カースト差別は西部ネパールよりも東部地域では相対的に少ないようにみえる。しかしながら、近寄って見ると、この部分にもまたアンタッチャビリテイは存在し続けることが明らかである。テライの諸郡およびイラムやタプレジュンのような丘陵部や山岳部のいくつかの郡はこの点では、よりオープンでありリベラルであると見られる。アンタッチャビリテイは、パンタル郡のフィデム・バザールでも存在する。チェットリやブラマンの人口が支配的であるこの郡では、それは多く行われている。リンプーの定住地では、アンタッチャブルは家に入ることは許されないが、あまり差別されていない。しかしながら、アンガダムベやネムバンのように、リンプーのなかにはチェットリやブラマンと同様にずっと保守的なものもある。ダサイでは、アンタッチャブルはムキヤ Mukhya (頭領) の家屋や中庭を掃除しなければならない。ダマイはプールパティ Phoolpati やまた葬式行

列でプラサド Prasad のときに音楽楽器を演奏しなければならない。

(写真一葉、ウダイプルのベルターのシヴァ寺院では、アンタッチャブルの入場は禁止、略)。

丘陵部や山岳部と同様、テライでもまたアンタッチャブルはミルクや凝乳を公然とは売ることができない。しながらかれらは水牛を購入するためにローンを受ける。

ドムやメター Mehtar (『清掃人』) を含むテライ生まれのアンタッチャブルは非人間的に扱われている。バドラブル、ピラートナガル、ラージビラージおよびジャナクブルのような町でさえも、かれらはレストランに入ることができない。他方丘陵部のアンタッチャブルはその中で食べることを認められている。

この地域でもまた、アンタッチャブルは市民権証明書を受けるにあたって困難に直面しなければならない。以前はかれらはこうした証明書にそのカーストを記さなければならなかった。最近はその父親の証明書に基づいて発行される。彼らがそのカーストとは違った姓を述べることができない理由はそれなのである。

この地域でもまたアンタッチャブルは寺院に入ることを禁じられている。この制限は、一九七二年、七三年にポージブルのシダカリ Siddhakarī 寺院で放棄されたが、しかし、第一〇条(カ)に説明として付け加えられた民法典の修正のち、一九九〇年以來、アンタッチャブルはこの寺院に入ることを認められていない。同様に、シデシワル Siddheshwar、パクワ Pakhuwa およびディングラ Dingla の諸寺院もかれらには開かれていない。デモクラシーの復活とともに、プリトウビ・ナガル村開発委員会(ジャバ)でブディ・バハドウル・シヤンカール会長の下で建設されたシヴァ寺院は、カミが参拝する場所と呼ばれて、高位カーストの人々は訪れない。同様に、かれら

はまたそこで建設された井戸から水を飲むことをやめた。パンチタル郡のスパン村開発委員会にあるジョルボカリ・シヴァ Jorpokhari Shiva 寺院では、アンタッチャブルは水を提供されていたが、しかしのちにかれらはそれをやめた。最近かれらはその初期の慣行を復活しようと努めたが、成功できなかった。デヴィ・ネバリやゴピ・カリコテを含む四五人のアンタッチャブルは、力づくで水の提供を望んだが、高位カーストの人々はかれらにその足を折るといつて脅かした。この出来事は、タッチャブルとアンタッチャブルとの間の緊張を高めた。

(写真一葉、〈牛を世話する〉サブタリ出身のチャマールの女性、略)

高位カーストの人々はしばしばアンタッチャビリティに反対のスローガンを出す、しかしかれらはそれを行動に翻訳したがない。この事実は一九九二年にダランで生じた出来事によって確認されうる。ダランのチャクラガッティでは、いくつかの喫茶室やレストランはアンタッチャブルに開放されていない。

アンタッチャブルの居住地は軽蔑的な名前を付けられ、そこではいかなる開発行動も行われていない。例えば、ジャパ郡のアルジュンダラー二のマーケット・エリア内部にはアンタッチャブルの居住地がある。高位カーストの人々によって呼ばれた「カミ村」Kami Toleは、同一区内の住民によって「エカント村」Ekant Toleと呼びなおされている。電気はまだこの居住地区には供給されていない。他方、二〇年の間その村はこの施設を使用している。道路は建設されていないし、飲用水の管理もない。

この地域のアンタッチャブルの多くはカースト差別とアンタッチャビリティのシステムからみずからを解放するためにキリスト教に変わった。しかしこれら改宗した人々でさえも高位カーストのキリスト教徒によって同等には

扱われていない。ヴィシユヌ派の信者たちはすべての宗教的コミュニティのなかでもっとも保守的である。東部地域のヴィシユヌ派の信者たちの極端な実例はこんなものである。クドゥナバリ二(ジャバ)のヴィシユヌ派の信者たちの教師とみなされるデヴァキ・ナンダン・コイララ、およびかれの弟子たちは、プーランや他の宗教的プログラムで、アンタッチャブルが座するための別個の場所をしつらえ、そしてかれらがその場所を去るとき牛糞のしついで清められるのである。

ウダイブルもまたアンタッチャビリティにおいて同様であることが判明している。ここでは、低位カーストの人々のミルクは売られない。誰かのカーストが暴かれれば、かれはレストランに入ることができない。低位カーストの人々は、ベルター・バザールにある公衆の利用する水栓が高位カーストの人々によって空けられたのちにだけ、それから水を取ることができる。ここでもアンタッチャブルの人々は寺院や神社に入ることができない。

コータン郡の多くのレストランにアンタッチャブルは入ることを認められない。同様に、かれらはモラン、サプタリ、ダヌシャおよびシラハのようなテライ諸郡では寺院に入ることができない。特にドムはアンタッチャビリティによってさらに犠牲になっている。かれらは無知で字を知らずゴミの只中に住んでいる。

カーストに基づくアンタッチャビリティに対する宗教的諸コミュニティ、 政府および政党の態度

ネパールの統一のためのプリトヴィ・ナラヤンの闘いの間、カル・サルキ、マニ・ラム・ガイネそしてビセ・ナガルチは重要な役割を果たした。この事実にもかかわらず、カースト差別とアンタッチャビリティのシステムを軽減するための何らの試みもなされなかった。シヤシダル(二七四七一—八四九)やギヤンデル・ダス(一八三五

—一八九七)のような幾人かのジョスマニの聖者がカースト主義とカルマカンド Karnakand に反対し闘争を進めていった。ラン・バハドウル・シャハ(一七七七—一八〇六)は、シャシダルによってジョスマニ派に入会させられて、カースト主義に反対し、そしてすべてのカーストの参加する祝祭を組織した。このような活動はかれの廷臣や司祭や保守的な個人によって反対された。これらの活動はしかしながらのちの王たちによって遂行されることはなかった。かれらは、カーストの平等を確立し、すべてのカーストを単一の国民の力に統合するのを助けることができたかもしれないのだ。一八五三、五四年の民法典はアンタツチャビリティとカースト・システムを合法化する最初の試みだった。この法典はスレンドラ王体制の時ジャング・バハドウル・ラナによって定式化され施行された。この法的規定はアンタツチャブルの悲惨と苦難を増した。聖者ギャン・ディルダスは、国内や海外でこの法律に抗議を始めた。シッキムでは、この迷信は、一八六八、六九年には、明かりを通してネパール社会でカーストを探す茶番劇として嘲笑された。幾人かの個人や思想家がラナ体制時にカースト・システムとアンタツチャビリティを廃止することに努めた。しかしかれらは独裁的支配のため試みに失敗した。

人道主義的な国王、ジャヤ・プリトヴィ・バハドウル・シン(一九六三—一九九七(ママ))は共同感情の必要性を認識した。かれにとつて、知恵と道徳性に基づく人間関係は純粹の統一と博愛を得るのを助けることができる。かれが社会改革を実行した理由はそれである。バジャーンの王子であったにもかかわらず、かれは国民、人々、普遍的平等そして地球的平和にとつて忘れられない仕事をなしとげた。ジャヤ・プリトヴィ国王は、カースト主義や宗教や権力のはかなさを超越する純粹の人道主義的価値や見方に深くかわり、そして福祉活動をおこなうことによって、抑圧された人々に深い共感を覚えた。例えば、カル・ボール(サルキ)やラビダセ(ダマイ)のような低位カーストの人々は、高度の技能的作業を指南するため外部に送られた。ジャヤ・プリトヴィ国王の平等主義的か

つりべらるな思考と行動の影響のために、かれの義理の父チャンドラ・シヤムシエルもまたかれの宮廷で声をあげた。「アンタッチャブルもまた人間だ。かれらもまた平等の権利を享有すべきである」。しかし、この点での廷臣の無関心のために、あるいはいくつかの他の理由のために、かれの理想は実現しなかった。

カーストや色や階級に関連した差別は人類を絞め殺しつつあり、人間性への侮辱であることがわかった。この転換期に、国連は一九四八年人権宣言を公にした。この宣言の第二条によれば、「すべて人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位又はこれに類するいかなる事由による差別をも受けることなく、この宣言に掲げるすべての権利と自由とを享有することができる。さらに、個人の属する国又は地域が独立国であると、信託統治地域であると、非自治地域であると、又は他のなんらかの主権制限の下にあるとを問わず、その国又は地域の政治上、管轄上又は国際上の地位に基づくいかなる差別もしてはならない」。一九五〇年運動ののち、トリブヴァン国王は一九五一年三月三日に次のアナウンスをおこなった。「ネパール軍隊の兵士の任命において、カーストや宗教や言語に基づいていかなる差別もなされるべきではない。すべてのカーストや宗教や言語の一人ひとりとは平等に軍隊に加わる資格がある」。一九五一年二月二三日発表された新聞報道において、トリブヴァン国王は、以下のようにカースト差別についてのかれの態度を表明した。

「カースト差別とアンタッチャビリティを廃止するかどうかは、民主国家では一人や二人の個人によって決せられ得ない。それはすべての国民のコンセンサスによって決せられるべきである。それゆえ、立法議会が形成されないならばこの問題は生じない。」

世界的な「開放」の波で、民法典（一八五三、五四四年）に謳われた社会的慣行は、人びとのイニシアティブである程度まで緩められた。しかしながら政府レベルではカースト差別とアンタッチャビリティを廃止するためのい

なる措置をも採られなかった。その上、その時期、この方向へのいかなる重要な手段も諸政党は採らなかつた。

マヘンドラ国王はパンチャヤート体制時、一九六三年八月一七日に民法典を施行した。それははじめてカースト・システムの排除を発表したが、しかしその違反による刑罰については依然として沈黙を続けている。それゆえ現実にはいかなるちがひもみないのは当然である。しかしながら、この民法典は不正な法的諸規定から成るそれ（一八五三、五四年）にとつて代つたために歴史的重要性を持つてゐる。低位カーストに所属するにもかかわらず、政党のないパンチャヤート体制の時期にたまたま閣僚となつたヒラ・ラル・ビシュワカルマもまた、前述の法の履行を支持する代りに現状維持を支持した。同体制の間、ダン・マン・シン・パリヤールやハル・クマール・シンや T・R・ビシュワカルマやテク・バハドゥル・ビシュワカルマのような低位カーストの代表たちは、ラシュトリヤ・パンチャヤート（全国立法議会）にノミネートされたのだが、この点についてはなんらの貢献もしなかつた。しかしながら、この時期ネパールにおける後進コミュニティを社会的、経済的に促進するために、何百万ルピーの金が外国援助として受け取られたこと、だがこの分野においてはいかなる措置も採られなかつたこと、は留意されるべきである。ネパールは国連の諸条約、諸商議および諸申し合わせに署名しているが、カースト差別や抑圧を廃止するためのいかなる実体的ある措置も導入していない。

一九九〇年の民衆運動は国に多党制デモクラシーを復活させたが、憲法を起草するために形成された憲法勧告委員会には低位カースト出身の代表はだれもいながつた。国王とネバリ・コンGRESとコミュニティの代表から成るこの委員会は、抑圧された者のために、議会において留保された三議席の規定を持った憲法草案を用意したが、それは憲法から削除された。その代わり、それはネパールに「ヒンドゥ国家」の地位を与え、カースト主義を助長した。

一九九〇年ネパール王国憲法第一一条第四項によれば、「何人も、カーストを理由として不可触民として差別されることもなく、公衆の利用する場所への立ち入りを拒否されることもなく、また公衆施設の利用を拒否されることもない。この規定に対する違反は、法律により処罰される」。にもかかわらず、伝統的に存在してきた差別を慣習的におこなうことが、法的条項として付加された。

この条項を廃止するために、マン・バハドウル・ビシユワカルマとマノアル・ラル・バムレルが、別々に、一九九二年六月六日（令状二五〇五番）および一九九二年七月二三日（令状二一〇五番）に、最高裁判所へ訴えを提起した。一九九三年二月二五日本曜日、トリロク・プラタブ・ラナ判事、ラクスマン・プラサド・アリヤル判事およびケダル・ナトウ・ウパディヤナ判事から成る特別法廷の判決によれば、民法典のコラム一〇（カ）の下の説明は無効であると宣告され、取り消された。何人も、カーストに基づいていかなる寺院あるいは公衆の利用する場所においても、誰をも差別すべきでないことが決定された。

与党も野党も、疑いもなく被抑圧者の社会的、経済的向上のために、とりわけ選挙中はスローガンをかかげる。しかしながら、実際にはかれらはこの問題には関心を持っていないとはみえない。これに関しては、ネパールの人権組織の役割は、カースト差別を廃止し人権を確立するための圧力団体として、相対的に積極的であった。政府や政府・準政府機関や政策定式化セクターへのアンタッチャブルの参加に、そして社会的、経済的、教育的分野でのこの階級の留保に、国家が関心を示してこなかったのは遺憾である。

どの社会組織もアンタッチャビリティの根絶に積極的役割を果たすとはみられてこなかった。その代わりに、社会的改革者や知識人が、個人的基盤の上で（限定的ではあったが）積極的な貢献をしてきた。前首相の故ビシユウエシユワール・プラサド・コイララもまたカースト主義とアンタッチャビリティに反対であった。同様に、マ

ナンド・サプコタもその大義を促進するのを助けた。かれはチャインプルのジャワール・ロツカが教育を受けるのを援助した。バンデイト・チャビ・ラル・ポカレルは、ダランで教育を受けるのに、ヒラ・ラル・ビシュワカルマ、T・R・ビシュワカルマおよびウマ・ラル・ビシュワカルマに対して協力を差し伸べた。

インドラ・プラサド・プラサインとナラド・ムニ・トゥルンダは、それぞれイラームとボージプルでアンタツチャブルが公的な場所に入るために働いた。一九五二年、ダルクタのバダ・ハキム(郡官吏)、ラン・ナート・ウプレティは、ジャワール・ロツカが無料教育を受けるのを助けた。チャインプルではシエル・バハドウル・シユレスタがアンタツチャブルの教育に助力した。デヴィ・プラサド・ウプレティ(一八一—一九九二(ママ))はたいていジャパとアタライに住んでいたが、あるビシュワカルマをコックとして雇い、アンタツチャビリティの概念に挑戦した。シャンギヤのカリ・バクタ・パントはかれの才智ある著作を通してアンタツチャビリティを批判することによって重要な貢献をなした。(一九三四、三五年)の以前に、チャインプル(サンクワサバー郡)のバクタ・バハドウル・シャツキヤは、ネワール・コミュニティのアンタツチャビリティの抗議に従事した。一九五〇年以後、マエシユル・メニヤンボはアンタツチャブルの女性と結婚し、カースト差別の廃止に貢献した。一九五二年以降、アムビカ・サンワ(現議員)は、生涯をかけてアンタツチャビリティに対する闘いで賞賛すべき試みを行い、この原則を実行しつつある。

ネパールにおけるカースト解放のためのアンタツチャブルのイニシアティヴ

一九五〇年以前、ネパールの歴史には、国家レベルで、被抑圧者が組織的な方法で始めたアンタツチャビリティ解放運動についての記載はなかった。社会的レベルでは、イラームのカレ・ダマイ(カリ・バハドウル・スンダ

ス)、テラトゥムのゴパール・ラムジェル(一八六一—一九四九)、バグルンのバガトウ・サルブジット・ビシュワカルマ(一八九三—一九五五)、パルパのリップ・ラル・ビシュワカルマ(一九一四—)、および、他にはヒクマール・シン・ビシュワカルマ、ガンガ・バハドウル・パリヤール、マンビル・ビシュワカルマ、それにゴティ・バセル(一九〇〇—一九五三)のような個人が、アンタッチャビリティを廃止し、社会改革をもたらすことに関心を持っていたことが見出される。ラナ家の専制支配からの解放を求めて声をあげることは、直接死を招くことであった。このような状況では、被抑圧者は自己保存のために、運命に耐え苦痛な生活をおくる以外に選択はなかった。

一九五〇年運動は、人々に話し書き読む機会と政治的自由を提供し、司法的、行政的な事務所への門戸を開いた。しかしながら社会は依然として、ジャヤステイティ・マツラとジャング・バハドウル・ラナが課した、何世代にもわたるカーストを抑圧する法的制限の軌道の跡をたどっていた。政党の急成長があつたが、カースト・グループを解放し上昇させるよりも、権力を握って稼ぐことに、より熱中した。その結果人々の期待にしたがつた変化と発展はなかつた。しかしながら、それは、教育と組織的な統一が欠けていては国家レベルに達することは不可能だ、ということを示した。国家レベルで力を動員することなくして、カースト生活のさまざまな局面を、計画的なやり方で活性化することはできない。被抑圧コミュニティが認識するようになったことはこれである。

被抑圧階級の権利と自尊心を活動的にするために、被抑圧者の諸組織が幾人かの個人のイニシアティブで、一九四七、四八年にバグルン、スンサリおよびカトマンドウで設立された。これらの組織は、その管轄内にかなり限定されたが、歴史的背景を作りだすための兆候と考えられる。「ヴィシユワ・サルバジャン・サング Viswa Sarbjan Sangh」はサルブジット・ビシュワカルマが一九四七、四八年にバグルンで形成した。「ニムナ・サマジユ・スタール・サング Nimna Samaj Sadhar Sangh」は、一九四七、四八年にジャドゥビル・ビシュワカルマ、ヒララル・ビ

シユワカルマ、ウマ・ラル・ビシユワカルマ、それにT・R・ビシユワカルマが、スンサリのダランで設立した。そして「仕立て屋組合 [Tailors' Union]」は、同年カトマンドウで、サールシユ・ナート・カバリが招集者となって構成された。一九五一、五二年には、「サマジユ・スタル・サンク Samaj Sudhar Sangh」がサールシユ・ナート・カバリの召集のもとで「ジャート・トド・サンク Jat Tod Sangh」にとつてかわった。そのイニシアテヴで、一九五四、五五年にバシユパティ・ナート Pashupati Nath 寺院に入る試みがなされた。シデイ・バハドウル・カドギがバシユパティ・サンガルシユ・サミティの招集者に選ばれた。何千人ものアンタツチャブルが、サールシユ・ナート・カバリとガネーシユ・ヨギの指導のもとで組織されたこの集會に参加した。当時の内相、タンカ・プラサド・アチャリヤの命令で、行政府は煽動者に対してラティ Jati 罪を使うべく警察力を展開した。この集會には多く女性が参加し、七五〇人が警察に拘引された。このアジテーションのち、政府ははじめてバシユパティ・ナート寺院から「アンタツチャブル入るべからず」とあるプレートを撤去した。

そののち、一九六三年の民法典の実用性を評価するために、ボージブルのシッタ・カリ Siddha Kali 寺院に、パダム・スندگانとラル・クマリ・ビシユワカルマの指導の下で入構した。それはアンタツチャブルに寺院に入ることとを可能にするための二日間のプログラムであつた（一九七二年、一〇月一六、一七）。このプログラムの組織化にかかわつた人々には、ナラド・ムニ・トゥルン、ニランジャン・バクタ・シユレスタ、バダ・ハキム（郡官吏）を含んでいた。他方、高位カーストの人々、警察機構、司祭およびパンダ Panda（聖地巡礼案内や家庭指導にあたるバラモン）たちはすべてそれに反対だつた。一九九三年一〇月一五日の寺院への入構につづくプログラム、しかしそれは翌日成功することはできなかった。

アンタツチャブルの女性たちを助けるといふ目的で、「パリガニット・ナリ・サンク」 Pariganti Nari Sangh が

ミタイ・デヴィ・ビシュワカルマを議長として一九五五年カトマンドゥに設立された。「サマジュ・スタル・サング」は、一九五七、五八年にサールシユ・ナート・カパリを再びその議長として、「ネパール・ラシュトリヤ・パリガニット・サング Nepal Rashtriya Pariganit Sangh」へともう一度転換された。その総書記はリプ・ラル・ビシュワカルマであり、T・R・ビシュワカルマとヒラ・ラル・ビシュワカルマもまたそれにかかわった。ミタイ・デヴィ・ビシュワカルマのパリガニット・ナリ・サングもまた一九五八、五九年にそれに合併した。この組織は一九六二、六三年に正式に登録された。一九六七、六八年「ネパール・ラシュトリヤ・ダリット・ジャン・ピカス・パリシャッド Nepal Rashtriya Dalit Jan Bikas Parishad」がサールシユ・ナート・カパリの議長の下で設立された。ヒラ・ラル・ビシュワカルマがその総書記になった。それは一九七二年六月一日にカトマンドゥで第一回国民大会を開いた。この大会は被抑圧者の歴史上新しい出来事であった。大会後モアン・カパリがその会長になり、T・R・ビシュワカルマが総書記になった。ヒラ・ラル・ビシュワカルマ、ジャワール・カパリ、ビチェ・ヴェルマ・カパリやその他の者もそのメンバーとなった。この協会の支部が国中にいくつか開かれた。それらはある程度までアンタッチャブルの組織化を助けた。それが一九七七、七八年に社会奉仕調整評議会に登録されたとき、ダリットという言葉が削除され、協会は「ネパール・ラシュトリヤ・ジャン・ピカス・パリシャッド Nepal Rashtriya Jan Bikas Parishad」と再称された。

一九七九年の国民投票のときに、「サマジュ・スタル・サング Samaj Sudhar Sangh」がシャンカール・ビシュワカルマ、パドマ・ラル・ビシュワカルマ、チトラ・シカル、マン・バハドゥル・ビシュワカルマ、その他のイニシアティブで設立された。その主な目的は多党制の設置を通じたカーストの解放であった。それは新聞や雑誌を発行し、人々の間に覚醒をつくりだそうとした。国民投票の結果が無政党システムに賛成となったとき、この組織は機

能を中止した。

ネパール・ラシユトリア・ジャン・ビカス・パリシャッドは一九七九、八〇年に登録されたが、その指導部で抗争が生じた。その結果、モアン・ラル・カパリの指導の下に同名で別の組織が出てきた。ジャワール・ロッカは一九八〇、八一年にモランで「パチャウテ・ジャーティ・スダル・サンダ Pachhaute Jati Sudhar Sangh」を形成した。一九八一、八二年には「ネパール・アティピチャディエコ・ジャン・ビカス・パリシャッド Nepal Atipichadivako Jan Bikas Parishad」が、ナラヤン・プラサド・カパリの議長の下でカトマンドゥに設立された。この組織はラシユトリア・ダリット・ジャン・ビカス・パリシャッドの団結上逆効果をもっていた。組織を確立し、指導者になるという競争で、「ネパール・ラシユトリア・サマジユ・カルヤン・サンダ Nepal Rashtriya Samaj Kalyan Sangh」がシッディ・バハドウル・カドギとプラタップ・ラム・ロハールをそれぞれその会長と総書記として形成された。ヒラ・ラル・ビシユワカルマを含むネパール・ラシユトリア・ジャン・ビカス・パリシャッドはそれへと合流した。一九八七年、八八年「ジャーティ・ビブヘド・ウンモラーン・マンチ Jati Bibhed Ummoolan Manch」がメグ・バハドウル・ビシユワカルマの議長の下でカトマンドゥに設立された。幾分革命的な措置に着手するという口実の下、この組織は多額の金を集めそして消失した。ネパール・ラシユトリア・ダリット・ジャン・ビカス・パリシャッドはしかし、T・R・ビシユワカルマの指導の下で機能しつづけた。

カースト解放と関連してかなり多数の組織が形成された。しかし、それらはカースト・グループの抑圧に反対して声をあげなかった。そうではなく、かれらは政府機関に忠実な組織を作ることによって、主として指導者競争と個人的利益に役立つことに力を注いだ。このために、これらの組織はいわゆるアンタッチャブルにほとんど訴えることがなかった。カースト差別は、パンチャヤート体制が長引く限り、拡がりつづけるだろうと考えられた。それ

ゆえ、カースト抑圧を除くためには多党システムによって、現在の政体を置き換えることが決意された。それを視野にいれながら、一九八八年「ウトウピデイト・ジャティヤ・ウツタン・マンチ Utpidit Jatiya Uthan Manch」(被抑圧カースト向上フォーラム、UFOC)がゴルチェ・サルキを会長にしてカトマンドゥで形成された。この組織は、地下組織的なやり方でその組織を拡大する過程で、国中の被抑圧カースト・グループから支持を受けた。それは勢いを得る反パンチャヤート運動に参加した。一九九〇年運動で、UFOCはその要求を前面に出して運動に参加した最初で唯一の被抑圧諸グループ組織であった。民衆運動ののち、この組織はカースト解放の要求と公開プログラムをもって前進した。それは憲法勧告委員会にその勧告を提出した。憲法施行後、一九九二年一月二三日に、その主要な要求に政府が無関心であることについて声をあげるために、公開劇場で大衆総会を組織した。一九九二年一月一八日、それは第一回国民会議を組織したが、そこでゴルチェ・サルキは再びそのリーダーに選ばれた。ルーバンデヒ・ダリット・ムクチ・モルチャ Rupandehi Dalit Mukti Morcha (一九九〇年) ジャバ、ダリット・ムクチ・モルチャ・ルーバンデヒ Dalit Mukti Morcha Rupandehi (一九八九年)、それにチュワチュト・ムクチ・サンガタン・カトマンドゥ Chuwachhut Mukti Sangathan Kathmandu (一九九〇年) のような他の諸組織はこのフォーラムに吸収された。組織の統合時に「ジャティヤ・サムタ・サマージュ Jatiya Santa Samaj」が、モアン・ビクラム・シンの共産党との関係を絶ち、そして、故T・R・ビシユワカルマが指導し、のちにミタイ・デヴィ・ビシユワカルマをコーディネーターとして再建されたところのネパール・ラシュトリヤ・ダリット・ジャン・ピカス・パリシヤッドといっしょになった。一九九三年三月二〇日、ウトウピデイト・ジャティヤ・ウツタン・マンチ(UFOC)とネパール・ラシュトリヤ・ダリット・ジャン・ピカス・パリシヤッドは解体されて、パドウマ・ラル・ビシユワカルマを会長とする「ネパール・ウトウピデイト・ダリット・ジャヤーティヤ・ムクチ・サマージュ

Nepal Upridit Dalit Jatiya Mukti Samaj] (被抑圧カースト解放協会、ネパール (S L O C ネパール)) という一つの組織になった。被抑圧カーストに関する諸組織の歴史のなかで、S L O C ネパールは今や強力な組織として機能しつつある。それは今のところカースト解放のための大運動をはじめ、被抑圧カーストに覚醒を作り出し、それを組織しそして人権を実行するのに活発である。

パンチャヤート体制時に階級組織として機能したネパール・ラシュトリア・サマジユ・カルヤン・サングは、民衆運動後、いまやネパール・コングレスの姉妹組織として活動している。指導権をめぐる競争がその内部で抗争を生じた。一九九二年、もつひとつの親ネパール・コングレス組織、「ヴィカソナムク・サマージュ・サング Vikasomukh Samaj Sangh」がラトナ・バハドウル・ビシユワカルマ議長の下で形成された。同時刻までに「ネパール・ダリット・ウツタン・サング Nepal Dalit Uthan Sangh」が、ダルビール・ビシユワカルマ議長の下でもうひとつのネパール・コングレスの姉妹組織としてオープンした。

ネパールにおける被抑圧者の諸組織の歴史において、カースト解放のスローガンを口実にして、かれらがその個人的で封建的な利益に役立てるために、それらを搾取してきたのは、不愉快な経験であった。もし個人的利益に役立たなかった場合には、別個の組織が形成されたのである。

カースト・アンタツチャビリティの廃止のための勧告

国勢調査報告 (一九九一年) に基づいてネパールにおけるアンタツチャブルの人口を特定するのは不可能である。かれらは別個に計算されなかったからである。この報告はいくつかのカーストについての統計を含んでいるが、ネワリー語を話す人々および辺境西部地域のアンタツチャブルの人口についての情報を含んでいない。それによれば、

三四五万人(ママ)のアンタッチャブルがいるだけである。一九九一年国勢調査の計算中に、地元の責任ある代表の援助を求めることしないで、にわか仕立ての基準で、カーストに関する情報が各地域で集められた。その結果、自分たちがアンタッチャブルだということを知らせなかったアーリヤ系とモンゴロイド系のアンタッチャブルたちはタッチャブルとして計算され、それによってタッチャブルの人口を増やし、アンタッチャブルの人口を減らした。加うるに、国勢調査報告は、タッチャブルとアンタッチャブルとを特定することが共同体内で困難であるということからも、不完全なものとなっている。もしこの報告で欠けているアンタッチャブルが考慮に入れられるならば、その人口は五〇〇万を越えるかもしれないと想定される。それにもかかわらず、アンタッチャブルについての現実の数字の確認を続けることは、われわれの側において望ましいことであろうし、それはHMGNZや、また社会的諸組織が関連諸問題を解決する方法を考案するのに役立つであろう。

カーストを基準にしてアンタッチャブルの地位にさせられたのは誰だったのか?いつ、何故それが起ったのか?これまでのところ、これらの問題にとりかかるべく、政府や社会学者や他の研究者が企てたいかなる研究もない。アンタッチャビリティという邪悪と屈辱に直面するこの大きな人口部分についての苦痛の長い記録の調査で、いかなる書籍や印刷資料も出てこなかった。国内のおよび国際的なイニシアテイヴで、信頼できる洞察力のある研究を通してアンタッチャブルの非人間的な状況に光を当てる時期が来ている。

カースト・システムはまた搾取の一形態である。したがって、アンタッチャブルの問題は搾取と離れて研究することはできない。人々をアンタッチャブルとなるよう強要し、この地位を受け入れさせ、無視された屈辱的生活をさせるのは、貧困である。この事実、テライのテリTelisやネワール・コミュニティのマンダールManandharsによって裏付けられている。これら両カーストはラナ体制の間はアンタッチャブルに扱われていたが、今はその改

善された経済状態でタツチャブルのランクに昇格している。国際的非政府機関（INGO）が行った調査によれば、ネパールの人口の四二%が貧困線以下にあり、それらの三五%がアンタツチャブルカーストのグループに属する。その生活の最低限の基本的必要性をも満たすことができず、極端な貧困に直面しているアンタツチャブルの経済状況を向上させるために、政府が効果的措施を定式化し履行するときなのである。

非識字と無知とによって、人々は前生と再生のような迷信を信じる。かれらはその前生の結果としてアンタツチャブルに生まれると考える。かれらはもしこの世で宗教的規律を守り高位カーストの人々に仕えるならば、来世でタツチャブルとして生まれるであろうと夢見る。この文脈では、政府がかれらを教育し覚醒させることが重要である。アンタツチャブルは経済的逆境とともに劣等感で苦しむ。その結果、かれらは教育にたいして積極的態度をもたない。そのため、政府は教育を受けていない者のために特別の教育プログラムを行い、またこのコミュニティのなかで教育ある者に、政府・準政府機関での仕事の留保を与える必要がある。かれらはその伝統的な職業を離れなかつたために、アンタツチャブルの水準に落ちたのである。だからかれらは、その職業を近代化し、それを競争できて所得が発生できるようにし、まともなものにするために、政府によって国内外で訓練を与えられるべきである。

国の教育政策に転換をもたらし、教育に容易にアクセスできるようにし、職業化することが必要である。カースト差別を力づけるような資料を読むことは禁止されるべきである。ラジオやTVやその他のマスメディアはカースト敵意や隔離を生ずるようなプログラムをやるべきではない。それらはアンタツチャビリティに関連した、カーストの平等に有害な事柄を放送したり刊行したりすべきではない。「四つの階級と三六のカースト」というような対立を生むような引用は省略されるべきである。アンタツチャブル・カーストは、非科学的、保守的な価値により、高位

カーストの人々に対し、奴隷制に反対して闘う事ができず、カースト解放の組織的運動を開始して、封建的諸慣行に打ち勝つことができなかった。その結果、かれらは宗教的幻想にふけるのだ。かれらを教育や覚醒を通じて高めるために、集会やドキュメンタリ・フィルムやポスターや他の諸活動がさまざまな地元で組織されるべきである。アンタッチャブルリティの問題は、交通手段やコミュニケーションの欠如により相互作用を奪われた人々の間で、より激烈であると見られている。このような状況では上述のプログラムはより効果的となりうる。辺境地域に交通手段とコミュニケーションを展開し、人々に病院や高校や図書館やクラブや郵便局や電話のような施設を提供することが必要である。これらの施設はかれらが悪いマナーや慣習を除くのを手助けする

さまざまな人民闘争で殺されたネパール人アンタッチャブルのリスト

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1. チヤンドラ・バハドゥル・サルキ
(チャーマカール) | 1950年タナフンのバンディプルで
殺害 |
| 2. マニラムダマイ | 同 |
| 3. ビンデシュワル・パスワン | 1972、73年 |
| 4. ニヤウレ・ビシュワカルマ | 1976、77年 |
| 5. ハルカ・バハドゥル・サルキ | 1976、77年 |
| 6. ガンビール・ダルジ | 1979、80年 チンタン
(ダンクタ) 事件 |
| 7. ダハナ・バハドゥル・ダルジ | 同 |
| 8. チヤンドラ・バハドゥル・ダルジ | 同 |
| 9. タンカ・バハドゥル・ビシュワカルマ | 同 |
| 10. ガネーシュ・ビシュワカルマ | 同 |
| 11. ギヤン・バハドゥル・シャヒ | 1990年大衆運動
(パタン) |
| 12. パンバ・シャヒ | 同 |
| 13. Ms レカ・ビシュワカルマ | 1990年 |
| 14. リシイラム・パリヤール | 1990、91年 (ポカラ) |
| 15. モヒトウクリシュナ・バイジュ | 1992、93年 (カトマンドゥ) |
| 16. プルナ・バハドゥル・パリヤール | 1993年 (ナワルパラージ) |
| 17. ナラ・バハドゥル・ネパリ | 1993年 (ルーバンデヒ) |
| 18. マン・バハドゥル・サルキ | 1993年 (ダマク、ジャバ) |

だろう。

現行の憲法や法律はカースト間平等および自由を保障する。民法典のコラム一〇（カ）が、公衆の利用する場所の使用でカーストを理由に人々を差別する行為を厳格に罰するべく施行される場合にのみ、カーストの平等はかなりの程度まで達成されうる。それに加えて、誰かがアンタツチャビリティを行ったり、カーストを理由に差別をしたりする場合には、最も厳格な処罰と補償の支払いをするよう法的規定をつくることもまた望ましい。

一七五七年にプリトヴィ・ナラヤン・シヤハは、ある人が、彼を救ってくれたのち、その人をドゥアル Durar からプトワール Putwar・カーストに引き上げ、そのキルティプル侵略時にその人をゴルカに連れて行った。ラン・バハドウル・シヤハはヒンドウの正統的觀念に反対し、すべてのカースト出身の人々が一緒に食事をし寺院に入ることを認めた。ジャング・バハドウル・ラナはメチェ Meche というあるアンタツチャブル・カーストをタツチャブル・カーストに転換した。今日でも、カースト・システムを廃止するための諸手段が、国家レベルでとられるべきである。学校での名簿登録や市民権証明書の発行時に、低位カーストの人々に対し、その職業的姓ではなく、その世襲的姓を使うのを認めることが必要である。

カースト間結婚もまたカースト制度廃止の重要な手段になることができる。血の關係は一体感を教え込むことを助ける。こうして、カースト・システムとアンタツチャビリティは、もしカースト間結婚が諸誘因を通して政府レベルで激励されるならば、迅速に一掃されうる。

ネパールのあらゆるところで被雇用者と人民の代表者は訓練されていない。それどころか、かれらは社会的悪の犠牲者であるとみられる。その結果、カースト・アンタツチャビリティに反対して宣伝することは不可能である。このため、被雇用者と地元住民の間の調整を確立し、反アンタツチャビリティ諸法の説明をするため、訓練者が

中央から派遣さるべきである。一般の祝宴で共食を組織することは、この問題に積極的なインパクトを与えることができる。

教養あるインテリや社会的指導者は、アンタッチャブルをタッチャブルとして扱うことよってモデルを提示すべきである。社会の他のメンバーも、アンタッチャブルに関して共感や寛容や人間的扱いをもつべきである。すべてのものが団結と統合のうちに生きる必要である。政界では、アンタッチャブルは村レベルから国家レベルまで

芸術、文化および他の分野で評判のアンタッチャブルのリスト

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. ビセ・ナガルチ | ブリトビ・ナラヤン・シャハのナガルチ (ゴルカ) |
| 2. マニラム・ガイネ | ブリトビ・ナラヤン・シャハのカルカ Karkha 歌手 (ゴルカ) |
| 3. カル・サルキ | ブリトビ・ナラヤン・シャハの皮革管理人 (ゴルカ) |
| 4. バンゲ・サルキ | 英軍が1809年にベティアに到着時、ネパールへの道を教えなかったかどで殺された偉大な愛国者 |
| 5. ヒラ・ガイゲニ | マトゥバル・シン・タパの伝説的 (カルカ) 歌手 |
| 6. バカト・ビル・ブダビルティ | ブリトビ・ビル・ビクラム・シャハ・デヴィ体制時の国民的作詞家、現ネパール国歌の詩 |
| 8. ラム・マヤ・チャミニ (清掃人) | 1951年運動のはじめにシンガドゥルバで捕われた政治指導者たちを助けた |
| 9. カレ・ネバリ (スナム) | 1951年頃の警察楽隊の初代マスター |
| 10. デイル・バハドゥル・スナム | 1953年頃の王国軍楽隊の初代マスター |
| 11. パンディット・ランディップ・ビシュワカルマ | ボージプル郡の大学者 |
| 12. ブアン・シン・ビシュワカルマ | 1986年に南極に到達した最初のネパール人 |
| 13. バブ・ダル・ダルシャンダリ (カパリ) | 有名なナブバジャ演奏家 |
| 14. ジャラク・マン・ガンダルブ | 著名な法律家でフォーク歌手 |
| 15. ラム・シャラン・ダーナル | 有名な文化研究者で作家 |
| 16. ムルディダル・ミジャル (B・K) | 有名な歌手で映画アーティスト |

代表されるべきである。

相互の善意の感情は、コミュニティ内のカースト差別により、アンタツチャブル間にも存在するとはみられない。それは、高位カーストの人々やまた政府によっても作られた差別に対するかれらの闘争を弱めてきた。解放のために闘うのではなく、かれらのあるものは、自らを他のものよりも優れていると主張する。アンタツチャブルの中で教養あり意識のあるものは、仲間にその伝統的職業によってかれらはアンタツチャブルなのではない、と説明すべきである。かれらはかれらを組織し、保守的で非科学的な社会的伝統をかれらが除くよう手助けし、平等と自由を確立するよう努めるべきである。アンタツチャブルもまた、あらゆる分野で高位カーストの人々と競争するために、かれら自身で、劣等感を放棄し、教育を受け、そしてその内部に道徳観を植え込むよう努めるべきである。